



高校2年生
YMCA英会話クラス在籍 西口 夏海さん

今までで一番の「挫折」

「いやだ!今すぐ帰りたい」。昨年12月、当時高校1年生の西口夏海さんは静岡県御殿場市にあるYMCAの研修施設、東山荘にいました。英語が大好きな夏海さんはEnglish Camp for Global Leadership (以下、ECGL) に、はるばる熊本から参加したのですが、他の参加者の英語力と熱気に圧倒されてしまったのです。

ECGLは、全国YMCAの協力で行われる中高校生のための、いわば英語合宿。年の瀬3泊4日の英語漬けのプログラムに、毎年、全国から数十人の中高校生が集まってきます。「何にでも挑戦するのが私、という自信は吹き飛ばされました。会場から見える富士山も、その時はカベにしか思えませんでした。ああ、これが挫折なんだって」。

YMCAはもうひとつの帰る場所

夏海さんは3歳の頃からみなみセンターの保育所「ぶどうの木幼稚園」に通い始めました。以来、高校受験前の2〜3カ月を除いて、ずっとYMCAのプログラム会員です。小学生になると週1回の子ども英語教室、季節のキャンプ。高校生の今も大人たちに混じって英会話教室に通っています。

ありがとう。いつしよに歩いてくれて。

YMCAって夏海さんにとってどんな存在?と問いかけると「学校とは違う、もうひとつの“帰る場所”。YMCAがあったからこそ、今の自分がいます」とすぐに答えが返ってきました。夏海さんの自己分析はこうです。

「英語やキャンプでコミュニケーションの大切さを学んだんだと思います。学校の先生から『誰かこれ、やってくれませんか?』って言われたら、私はいつも『はい』って手を挙げるんです。YMCAではどんなプログラムでも主体性や積極性が求められますよね。そういう環境で育てられたんじゃないかな。“もうひとつの家”ですね」。

母ひとり子ひとりの家庭で育った夏海さんはこれまで、熊本YMCAの参加費減免制度を利用してきました。参加費減免制度とは、公益法人である熊本YMCAが様々な事情で経済的な困難を抱えている子どもたちのプログラム参加費の一部を、地域の人々からの募金で補助する制度です。夏海さんが減免制度について詳しく知ったのはこの冬のことでした。それまで「YMCAにお世話になっている」という漠然とした意識でしたが、ECGLの参加報告のために参加した年末募金の感謝会がきっかけで、多くの人が自分を支えてくれていたんだ、という認識に変わったと言います。「ありがたいなあと、心から思いました」。

未来へ向かって

「お母さんが朝から晩まで必死に働いていたのは、私を養うため。お母さんは一人で二役をこなしてくれています。それでもお母さんは『あなたとの時間をもっと割くべきだった』って言うてくれるんです」。

日頃は母親になかなか気持ちを伝えられないという夏海さん。この日は、お母さんへの素直な気持ちを述べてくれました。

「今までいろんな辛いことがあったと思うけれど、いつも私と乗り越えてくれてありがとう。反発することもあったけど、私と一緒に歩いてくれてありがとう。いろんな人が私を支えてくれています。何より、お母さんには一番感謝を伝えたい」。

今の目標を尋ねてみました。

「ECGLにもう一度行きたい。7月にはYMCA子ども英語キャンプのアシスタントリーダーも務めました。ECGLまでにいろんな経験をどんどん積んで、英語力も磨いて再チャレンジです。昨年は帰りたくて初日に泣いて、でも、どっぴり英語オンリーの時間を過ごして、最終日に、今度は仲間との別れが惜しくて泣いちゃった。あんな振れ幅が大きい経験と勉強ってなかなかできないですから」。

これからやってみたいこと、見てみたいこと、将来の夢をたくさん話してくれた夏海さんの未来は日に日に輝きを増しているようです。



リーダーとして参加した子ども英語キャンプ

Pickup

尾ヶ石保育園の
園児と一緒に七夕
大邸YMCA職員研修



こどもえいご
アドベンチャーキャンプ

子育て支援
オマチマンコンサート



I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

楽しみながらチャリティ YMCA祭

今年も各センターでお祭りを開催します。地域の皆さん、どなたでも来場可能です。益金は、西日本豪雨災害、熊本地震などの災害復興支援、国際協力活動、地域活動、青少年育成等のために用います。また、YMCA祭ではバザー

出店品、抽選会賞品のご寄贈をお願いしています。当日ボランティアも募集します。

詳細は各センターにお問合せください。

楽しむ
×
チャリティ

みなみセンター(田迎) サザンフェスタ

来年4月のみなみセンター開設15周年を記念して、いつも以上に気合いを入れています!ご家族、お友だちお誘いあわせのうえ、お越しください。

回9月9日(日)11:00~15:30

場 みなみセンター(熊本市南区田迎5-12-50)

益金の使途 ミャンマーモガウン
YMCAエイズ孤児支援、地域活動及びNPO・NGO支援など

因 託麻中学校吹奏楽、YOSAKOI、熊本ヴォルターズ、ステージ発表、のみの市、バザー、ゲーム、模擬店、大抽選会など(予定)

図 Tel 096-378-9370



ながみねファミリーセンター(長嶺南) ながみね祭

毎年大賑わいのながみね祭。今年はステージイベント・出店がPower up! 乞うご期待。

回9月22日(土)16:00~20:00

場 ながみねファミリーセンター(熊本市東区長嶺南3-1-107)

益金の使途 東ティモールYMCA支援、防災及び地域の子どものための事業活動費、会員・地域の皆さんとの交流など

因 夜市、各種発表会、お祭り広場、抽選会、のみの市、バザー、ゲームなど 図 Tel 096-385-0676



むさしセンター むさしフェスタ2018

様々なステージイベントとみの市の市が自慢です。お楽しみに。



回10月13日(土)11:00~14:00

場 むさしセンター(合志市幾久富1866-1339) 図 Tel 096-248-6334

東部センター 帯山まつり

地域のお祭り「帯西まつり」と同時開催!



回10月28日(日)9:15~15:00

※食バザーは11時開始
場 帯西コミュニティセンターグラウンド(東部センター横)、帯西小学校 図 Tel 096-382-6661

水前寺幼稚園 わいわい秋まつり

園児や保護者はもちろん、地域の皆さんもぜひお越しください。



回11月10日(土)11:00~

場 YMCA水前寺幼稚園(熊本市中央区出水3-12-1) 図 Tel 096-362-4141

中央センター 前進祭

今年で50回目!メイン会場は広い体育館。家族揃って楽しめます。



回11月11日(日)10:30~15:00

場 中央センター(熊本市中央区新町1-3-8) 図 Tel 096-353-6391

8月16日・17日

第42回 全国YMCA 少年少女水泳大会

全国のYMCAで水泳を学んでいる子どもたちが集まる水泳大会を16年ぶりに熊本で開催します。皆さんの応援をよろしくお願いします。

回8月16日(木)~17日(金)

場 アクアドームくまもと

図 むさしセンター

Tel 096-248-6334



水泳
×
交流

9月8日 Saturday

留学生たちが想いを語る YMCA学院日本語科スピーチ大会

国際
×
学ぶ

YMCA学院日本語科に通う留学生によるスピーチ大会を開催します。学生たちの学習の成果をぜひご覧ください。

回9月8日(土)10:00~

場 東部センターレクリエーションホール
因 予選を勝ち抜いた留学生がスピーチします。

図 東部センター Tel 096-382-6661



R | E | P | O | R | T

[6月⇒ 7月15日]

ウエルネス

安全で楽しい夏を 水上安全キャンペーン&みんな泳げる25M運動

水遊びの機会が増える夏。YMCAでは、子どもたちが安全で楽しい夏を過ごせることを願い、様々な活動を展開しています。水の事故を防ぐための知識と技術を身につける「水上安全キャンペーン」では、洋服を着たまま水に入る着衣泳体験を実施。水着で水泳をしている時とは違う体の動かしにくさや、水の事故から身を守る方法を体験します。この活動はYMCAの水泳教室の他、1995年からは地域の保育園や幼稚園、小学校でも水上安全講習会として行っています。

7月12日(木)、熊本市立一新小学校では高学年の児童たちがペットボトルを用いて万が一の時に「浮いて待つ」方法を体験しました。

また、益城町立津森小学校では「みんな泳げる25M運動」と称して水泳指導の出前授業を行いました。「いのちを守り、育む」ということを目的に始まったこの活動は今年で6年目。多くの子どもたちに水泳の基礎を伝えることができました。「息継ぎのコツが分かった」「水泳が好きになった」といううれしい声が聞こえました。 職員 開かおり



学院

100名以上が集結 介護福祉学科・老人ケア科大同窓会

6月30日(土)、介護福祉学科(旧老人ケア科)の開設30周年を記念して大同窓会を開催。くまもと森都心プラザ会議室で13時半～16時半まで研修、その後、会場をザ・ニューホテル熊本に移して懇親会を行いました。

卒業生による実行委員会を組織し、半年前から準備を重ねて当日を迎えました。研修は「熊本の介護の未来を考える」をテーマに行われた熊本県介護福祉士会副会長の今村文典さんによる講演会で開始。その後3会場に分かれて、テーマ別の

講師による実技や講義が行われました。介護現場で働く卒業生がそれぞれの現場で抱えている課題を解決していく知恵と勇気につながったことでしょう。

懇親会には100名以上の卒業生と20名以上の講師陣が参加。卒業して何年も経過すれば立場も変わり、当たり前のように名刺が交換されます。懐かしい顔、顔、顔。卒業生たちからは「一気に学生時代の気持ちに戻る」「元気になれた」などの声が聞かれました。 職員 吉田しのぶ



国際

世界中の仲間と共に タイでYMCA大会

4年に1度開催される世界YMCA大会が7月8日(日)～15日(日)、タイ国チェンマイで開催されました。80以上の国や地域のYMCAから会員、職員など1300名以上が集い、熊本からは6名が参加しました。

今回のテーマは“ユースエンパワーメントが世界を変える”～かぎりない可能性を信じて～。若者を対象に25カ国で実施した100万人アンケートを基に進行。50以上のグループに分かれてディスカッションを行い、各国の文化や社会情勢が異なる

中、どのようにユースを育成していくか、熱く話し合われました。

YMCAは若者たちと共に変化を担うパートナーとして、様々なチャレンジをしていく必要があります。そのためには、地域の若者が抱える課題に対してYMCAが積極的に取り組んでいくことが重要です。これまでの働きを振り返り、YMCAの運動をいかに魅力あるものとして、成長させていくのかを世界中の仲間と共に考える機会となりました。

職員 神保勝己



岡 総主事の タラン トン Vol.50



希望に燃えて(祈りは一つ)

皆さんは、熊本YMCAの歌があることをご存知でしょうか。

ヴィレッジ・ピープルのY.M.C.A.「ヤングマン」は、故西城秀樹さんの歌として日本中で歌われました。近年、リバイバルされるなど、再び脚光を浴びています。人と人をつなぎ、元気になれるこの曲に、YMCA関係者も元気をもらっている

ますが、もちろん、これは熊本YMCAの歌ではありません。

かつて愛社精神を高めるために歌われてきた「社歌」が、再び脚光を浴びています。ダサイ、古臭い、押し付けがましい...などのマイナスイメージを持たれていましたが、最近では豪華アーティストや著名人が制作に携わり、会社のための歌から社員が楽しむための歌へとシフトしているそうです。働き方が多様化し、仕事に対する考え方も多様化する中で社員同士を結びつけるツールとしての期待があるようです。

1952年(昭和27年)に発表された熊本YMCAの歌は、熊本YMCA創立発起人で、当時、九州学院の教頭であった池永春生さんによる作詞です。「森の都の朝ぼらけ 有明波のなぐところ」

に始まり、「福音の旗さきだてて 進む希望の雲の果て／永遠に変わぬ大阿蘇の 燃る炎ぞわが思い」と力強く歌います。

池永さんは作詞の動機について以下のように述べています。「戦後の混乱のさなかにある青少年たちの虚無頹廢的な生活を座視するに忍びず、これを救うために自覚的青年運動による外はない...(中略)...その為には同志の志気の振起を図る必要がある。志気の振起は歌によるのが第一である」(熊本YMCA50年史 一部抜粋)。

私たち熊本YMCAに関わるものとして、大切に守り継承していきたい歴史です。今年、熊本YMCAは70周年を迎えます。福音の旗をさきだて、希望に燃えて歩みます。

t a l a n t o n

Snap

読者の皆さんから寄せられた写真を紹介します。



「プール」by まつ
@阿蘇市車帰

YMCA阿蘇キャンプがある車帰地域のプールの清掃をワイズメンズクラブや台湾からのインターンシップ生がお手伝いしました！



「キツツギが！」by のり @尾ヶ石保育園
保育園の園庭の木にキツツギが巣を作りました。



「阿蘇で礼拝！」by トキ @YMCA阿蘇キャンプ
昨年に続き、ルーテル大江教会の礼拝が阿蘇キャンプで行われました。緑が綺麗です。



「新ロゴ」by ポジ @中央センター
看板が新しくなってる!!



「仮設団地でボランティア」by ビケス (YMCA 学院日本語科学生) @木山仮設団地
Good memory for us!

写真募集中

YMCAの活動の様子や思い出を
写した写真を募集します。



応募は
こちら▶

西日本豪雨災害 YMCAポジティブネット募金

西日本を襲った記録的豪雨により被災された皆様にお見舞い申し上げます。

YMCAは、被災地でのボランティアワーク等の支援に留まらず、中長期的な視野に立って人びとの困難に、息長く寄り添います。コミュニティの復興支援を目指し、全国のネットワークや特性を活かした活動を展開していきます。

皆さまの尊いご支援をお願い申し上げます。



7月15日(日)に街頭募金を実施

募金期間 2018年7月14日(土)～10月31日(水)

募金使途・支援ボランティア(泥だしワーク等)

- ・子どもたちへのレクリエーションや心のケア
- ・夏期キャンプ活動への招待

振込先 肥後銀行(0182)新町支店(103)(普)1296939

口座名義 災害支援緊急募金

※お名前の前に「ゴウウ」とお書きください。

お問合せ 熊本YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397

渴望

ヨハネは、神様の御手にある巻物を、開くにも、見るにも、ふさわしい者が見当たらず激しく泣きます。その巻物には、「これから起きる、世の終わりの出来事」が書いてあったのです。ヨハネは、自分は罪人であり、「神様のさばき」が書いてあるその巻物を読むのには、ふさわしくないという自覚がありました。しかし、神様のみことばを聞きたいという願いもあります。

ヨハネは、高齢でありながらパトモス島に流刑の身になっています。今や教会はローマ帝国の中で成長しつつも、ローマ帝国の迫害の中で苦しんでいます。これから教会はどうなるのだろうか。ましてや離散してしまった約束の民、ユダヤの民はどうなるのだろうか。その答えが、表も裏もびっしりとしたためられているその巻物に書いてあるのです。巻物を読みたいのに読めない。ヨハネは激しく渴望するのです。

私たちは、目の前に聖書があっても、それを読みたいという「渴望」はほとんどありません。ヨハネと対照的です。

ですから、このヨハネの姿に胸を打たれるのでしよう。「これほど、神のことに飢え渴きを持ったことがあるだろうか。」と。

すると、その巻物は「子羊」であるイエス様によって、紐解かれていきます。神様の備えがちゃんとしてあったのです。

神のことに飢え渴きを覚える渴望は、クリスチャンの宝物のような気がします。いつまでも無くさないようにしたいものです。

わたしと聖句

ヨハネの黙示録5章4節

この巻物を開くにも、見るにも、ふさわしい者がだれも見当たらなかったの、わたしは激しく泣いていた。



多良木聖書教会
横山 秀喜



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2018年度基本聖句

コロサイの信徒への手紙 3章14節

愛を身に着けなさい。

愛は、すべてを完成させるきずなです。